

考古学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
考古学特論Ⅰ	日本考古学の諸問題	2	鹿又 喜隆	1学期	月	2	1
考古学特論Ⅱ	生物考古学	2	奈良 貴史	集中(1学期)			2
考古学研究演習Ⅰ	考古学研究史	2	鹿又 喜隆 阿子島 香	1学期	金	4	3
考古学研究演習Ⅱ	考古学の方法と理論	2	阿子島 香	2学期	金	4	4
考古学研究実習Ⅰ	考古学の調査と資料分析(1)	2	鹿又 喜隆 阿子島 香	1学期	水	3、4	5
考古学研究実習Ⅱ	考古学の調査と資料分析(2)	2	阿子島 香	2学期	水	3、4	6
資料基礎論特論	先史考古学資料論	2	阿子島 香	2学期	月	3	7
博物館資料論特論	東北大学収蔵の考古学資料	2	藤澤 敦	1学期	火	3	9
課題研究 (考古学)		4	阿子島 香 鹿又 喜隆	通年	金	5	

科目名：考古学特論 I / Archaeology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：鹿又 喜隆 (准教授)

講義コード：LM11205, **科目ナンバリング：**LHI-HIS628J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本考古学の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Lecture of Japanese Archaeology

3. 授業の目的と概要：

この講義では、日本の考古学研究史を通して、日本考古学の独自性と特徴を研究史を通して学びます。また、近年の考古学の課題や問題点を明示し、その解決方法に関する具体的例を解説します。特に、先史時代を主な対象として、自然環境や社会環境と、人類行動の関係を把握します。

4. 学習の到達目標：

(1) 考古学研究の歴史を理解する。(2) 現在の考古学研究の方法を理解する。(3) 人類が自然・社会・文化とのかかわりの中で生きてきていることを理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は、講義中心です。毎回、パワーポイントのプレゼンテーションにより講義を進めます。内容とスケジュールは以下の通りです。

1. 講義ガイダンス
2. 考古学の理論と方法 (1)
3. 抽象性の理解
4. 考古学の理論と方法 (2)
5. 寒冷適応
6. 環境変動の基礎的理解
7. 比較文化研究
8. 温暖適応
9. 災害と遺跡
10. 石刃技法をめぐる諸問題
11. 研究倫理と前期旧石器時代遺跡捏造事件
12. ヒトの姿を追って
13. 完新世の温暖化適応
14. 農耕の成立と展開
15. 植物利用の多様化

6. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [70%]・ (○) 出席 [30%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考文献を講義中に随時提示する。

8. 授業時間外学習：

講義内で試験課題に対応した設問をおこなうので、時間外に文献などで調べること。

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:00

科目名：考古学特論Ⅱ／ Archaeology(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期集中

学期：集中（1学期）、単位数：2

担当教員：奈良 貴史（非常勤講師）

講義コード：LM98817、科目ナンバリング：LHI-HIS629J、使用言語：日本語

1. 授業題目：

生物考古学

2. Course Title（授業題目）：

Bioarchaeology

3. 授業の目的と概要：

目的：考古学に必要な自然人類学的知識の習得

概要：遺跡から出土する人骨のヒトとしての進化的位置、ならびに生物学的特性を理解したうえで、発掘調査における人骨の取り扱い方と研究法を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

①人類進化の流れを説明できる。 ②人骨の解剖学的特徴を説明できる。 ③発掘調査における人骨の取り扱い方を説明できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. どうして考古学に人類学的知識が必要か 2. 人類進化概説①霊長類の特徴 3. 人類進化概説②ヒトの定義
4. 人類進化概説③ ホモ属の誕生 5. 人類進化概説④ ホモ・サピエンスの誕生と拡散 6. 骨学概論 7. 骨学
各論①頭骨 8. 骨学各論②体幹骨 9. 骨学各論③上肢骨 10. 骨学各論④下肢骨 11. 出土人骨研究法①遺跡
での扱い方 12. 出土人骨研究法② 研究室での清掃・復元 13. 出土人骨研究法③ 人骨の観察と計測 14.
出土人骨研究法④ 理化学的分析 - 遺伝子 15. 出土人骨研究法⑤ 理化学的分析 - 年代測定

6. 成績評価方法：

小テスト 30% レポート 70%

7. 教科書および参考書：

参考書 骨学実習の手びき 南山堂

8. 授業時間外学習：

授業時に提示する参考文献には必ず目を通すこと

9. その他：

科目名：考古学研究演習 I / Archaeology (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：鹿又 喜隆, 阿子島 香 (准教授)

講義コード：LM15405, **科目ナンバリング：**LHI-HIS633J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

考古学研究史

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Seminar of Archaeological Studies

3. 授業の目的と概要：

日本考古学を中心に、明治時代以来の考古学研究の流れを整理し、受講学生が各自の研究方向を見出します。例えば、旧石器の編年と製作技術、縄文土器の型式学、縄文集落と社会、農耕社会の成立と発展、古墳文化の特徴、東北地方の城柵官衙遺跡、古代窯業生産と供給、中・近世考古学などの課題があり、受講者各自が具体的な課題を選んで、順次、発表を行います。詳細な文献目録の作成、研究史の画期となった主要業績の解題、基本的な考古学資料の内容理解、調査研究報告書の詳細な検討、そして相互の討論を通して、研究の現状についての認識を深めます。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本考古学の研究史の流れを把握し、学史上の画期を整理して理解する。(2) 各自の研究テーマの現状と課題を理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回、生徒が自分のテーマに沿った資料を用いて発表をおこない、最後にディスカッションをおこないます。講義の内容とスケジュールは以下の通りです。

1. 講義ガイダンス
2. 学生による研究発表と議論
3. 学生による研究発表と議論
4. 学生による研究発表と議論
5. 学生による研究発表と議論
6. 学生による研究発表と議論
7. 学生による研究発表と議論
8. 学生による研究発表と議論
9. 学生による研究発表と議論
10. 学生による研究発表と議論
11. 学生による研究発表と議論
12. 学生による研究発表と議論
13. 学生による研究発表と議論
14. 学生による研究発表と議論
15. 学生による研究発表と議論

6. 成績評価方法：

- (○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]
(○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]

7. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

8. 授業時間外学習：

発表内容は、時間外に各自がまとめる。

9. その他：

研究演習 I、II を通年で連続履修することが望ましい。

科目名：考古学研究演習Ⅱ／ Archaeology(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：阿子島 香 (教授)

講義コード：LM25403, **科目ナンバリング：**LHI-HIS634J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

考古学の方法と理論

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Seminar of Archaeological Method and Theory

3. 授業の目的と概要：

考古学研究の歴史と現状について、各自の関心領域を中心にまとめて発表し、相互の討論を通じて理解を深める。各時代の研究における、型式学と技術、材質研究、編年と地域性、生産と流通、文化変化、環境と生業活動、社会と集団、葬制、集落論など、具体的に課題を選択し、詳細な文献目録を作成し、現在の問題点を的確に把握し、今後の各自の研究指針を追究する。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本考古学研究の現状について、学史の流れを踏まえて問題点を展望し、各自の研究テーマを具体的に追求できるようになる。(2) 近年その内容が非常に多岐にわたる考古学研究の、広がりや深まりを認識し、各自の研究方法を位置づけられるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 学生による研究発表①
2. 学生による研究発表②
3. 学生による研究発表③
4. 学生による研究発表④
5. 学生による研究発表⑤
6. 学生による研究発表⑥
7. 学生による研究発表⑦
8. 学生による研究発表⑧
9. 学生による研究発表⑨
10. 学生による研究発表⑩
11. 学生による研究発表⑪
12. 学生による研究発表⑫
13. 学生による研究発表⑬
14. 学生による研究発表⑭
15. 学生による研究発表⑮

6. 成績評価方法：

- (○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]
(○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]

7. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

8. 授業時間外学習：

発表内容は時間外に各自がまとめる。

9. その他：

研究演習Ⅰ、Ⅱを通年で連続履修することが望ましい。

科目名：考古学研究実習Ⅰ／ Archaeology(Advanced Field Work)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 3講時. 前期 水曜日 4講時

学期：1 学期, 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆, 阿子島 香（准教授）

講義コード：LM13304, 科目ナンバリング：LHI-HIS635J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

考古学の調査と資料分析（1）

2. Course Title（授業題目）：

Research and Analysis of Archaeological Materials

3. 授業の目的と概要：

発掘調査から、出土遺物の処理、資料整理と分析、図面製作、写真撮影、遺物の資料化、そして調査研究報告書の作成に至るまでの一連の作業を通して、考古学の高度な研究方法の実際を修得する。

4. 学習の到達目標：

考古学資料の実証的研究法を修得し、研究報告書の作成方法を学ぶ。発掘調査実習を通して、調査の計画と実践を学習する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作）①

第2回：出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作）②

第3回：発掘調査実習①

第4回：発掘調査実習②

第5回：出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作）③

第6回：調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築①

第7回：調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築②

第8回：遺物の実測と製図①

第9回：遺物の実測と製図②

第10回：遺物の実測と製図③

第11回：遺物の実測と製図④

第12回：遺物の実測と製図⑤

第13回：測定の基礎と機器の操作①

第14回：測定の基礎と機器の操作②

第15回：測定の基礎と機器の操作③

定期試験 有

6. 成績評価方法：

（○）レポート〔30％〕・（○）出席〔40％〕

（○）その他（具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み）〔30％〕

7. 教科書および参考書：

教室にて指示。

8. 授業時間外学習：

夏季に発掘調査を実施する。講義内で課題が終わらない場合には、宿題となる。

9. その他：

研究実習Ⅰ・Ⅱを通年で連続履修することが望ましい。15回の講義の順番は、発掘計画に応じて前後することがある。

科目名：考古学研究実習Ⅱ／ Archaeology(Advanced Field Work)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 3講時, 後期 水曜日 4講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：阿子島 香（教授）

講義コード：LM23305, **科目ナンバリング：**LHI-HIS636J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

考古学の調査と資料分析（2）

2. Course Title（授業題目）：

Analysis of Archaeological Materials

3. 授業の目的と概要：

第1学期に引き続き、考古学研究室による発掘調査資料・収蔵資料に取り組み、実際の研究分析法を学ぶ。発掘調査実習を通して、調査の計画と実践を学習する。

実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また通年において、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を発掘調査現場において学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。

4. 学習の到達目標：

（1）考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。（2）共同研究の意義について、理解できるようになる。（3）考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。（4）発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理（1）。
 2. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理（2）。
 3. 遺物の観察・記録と図化（1）。
 4. 遺物の観察・記録と図化（2）。
 5. 遺物の観察・記録と図化（3）。
 6. 遺物の観察・記録と図化（4）。
 7. 製図・トレース・レイアウトの作成（1）。
 8. 製図・トレース・レイアウトの作成（2）。
 9. 製図・トレース・レイアウトの作成（3）。
 10. 写真撮影（1）。
 11. 写真撮影（2）。
 12. 写真撮影（3）。
 13. 保存処理に関する研修。
 14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成（1）。
 15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成（2）。
- 6. 成績評価方法：**
- （○）リポート〔30％〕・（○）出席〔40％〕
- （○）その他（具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み）〔30％〕

7. 教科書および参考書：

教室にて指示。

8. 授業時間外学習：

講義内で課題が終わらない場合には宿題となる。

9. その他：

考古学研究実習Ⅰ・Ⅱを連続履修することが望ましい。発掘調査の出土量や作業の進捗に応じて、講義内容は前後します。

科目名：資料基礎論特論／ Archaeology (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：阿子島 香 (教授)

講義コード：LM21306, **科目ナンバリング：**LHI-HIS637J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

先史考古学資料論

2. Course Title (授業題目)：

Research Method of Prehistoric Archaeology

3. 授業の目的と概要：

先史時代の考古学資料研究の現状と課題について、発掘調査資料の基礎的な特質に応じた実証的な研究方法の理解を深める授業である。西ヨーロッパ (特にフランス南部)、北米 (特にアメリカのグレートプレーンズ地域)、東アジア (特に韓半島、ロシアサハリン) など、世界各地の遺跡を比較文化的視点で考察する。旧石器時代を中心とする事例研究の中から、問題点を選択して詳説する。年代論、機能論、分布論のもつ意義を考察する。また理論的には、人類学の一分野であるアメリカの「プロセス考古学」学派による研究史、遺跡・遺物の分析法を学ぶ。受講者の関心をフィードバックしながら、タイポロジー (型式学)、遺物の使用痕分析、遺物の空間分布、石器製作技術、統計的方法などから取り上げ、具体的な分析方法を解説する。期末レポートにおいては、受講者は日本国内の発掘調査報告書を各自の関心に従って選択し、先史時代遺跡から発掘された資料の事実記録に基づいて、各自がデータの分析を試みる。

4. 学習の到達目標：

先史時代の遺跡・遺構・遺物の特質を、資料にそくして理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。授業の構成と成績評価基準の説明。「キュレーター養成コース」の授業としての説明。アメリカ考古学の特質 (1)。
2. アメリカ考古学の特質 (2)。「人類学としての考古学」パラダイムと、日本の埋蔵文化財の考古学との比較。
3. アメリカ考古学の歴史 (1)。1960年代のニューアーケオロジーと、その研究事例、社会的背景。ムスチエ文化論争の意義。
4. アメリカ考古学の歴史 (2)。1970年代の「プロセス考古学」と、民族考古学の「ミドルレンジセオリー」の本質をめぐって。
5. ルイス・ビンフォードの考古学とミドルレンジセオリーの実践 (1)。
6. ルイス・ビンフォードの考古学とミドルレンジセオリーの実践 (2)。
7. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から (1)。
8. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から (2)。
9. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から (3)。
10. 課題レポートの解説 (1)。対象とする遺跡の選択と調査報告書の特質。埋蔵文化財保護と考古学研究との関係をめぐって。
11. 課題レポートの解説 (2)。発掘調査報告書における事実記載と解釈、考察の判断基準の問題をめぐって。
12. 先史考古学方法論の諸問題 (1)。型式学と人間集団論および年代学。
13. 先史考古学方法論の諸問題 (2)。機能論と使用痕分析法。
14. 先史考古学方法論の諸問題 (3)。遺跡内での遺物分布。人間活動の復元。
15. 先史考古学の国際的展望。レポート提出。

6. 成績評価方法：

(○) リポート [60%]・(○) 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

参考文献について、随時教室で指示。毎回、資料としてプリントを配布する (英語および日本語)。

8. 授業時間外学習：

各回の講義のトピックに関して、各自で参考文献を学習し、理解を深める。配布プリントの内容に関連した事項について、文

献読解を行なう。レポートの対象とする「発掘調査報告書」は、各自の関心に応じて附属図書館の地下書庫で、配架されている埋蔵文化財報告書を探求し、レポート課題として選択する。

9. その他：

セメスター期間中を通じて、考古学や埋蔵文化財関連の行事、研究会・学会、説明会等を、そのつど紹介・解説するので、受講者は積極的に参加し、この授業と関連するテーマについての理解を深めていくことが望ましい。考古学専攻分野の活動等との関連で、授業内容に若干のスケジュール調整あり。

科目名：博物館資料論特論／ Museum Collection Study(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

学期：1 学期， **単位数：**2

担当教員：藤澤 敦（教授）

講義コード：LM12303， **科目ナンバリング：**LHI-HIS638J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

東北大学収蔵の考古学資料

2. Course Title (授業題目)：

Archaeology collection of Tohoku University and history of the research

3. 授業の目的と概要：

東北大学には研究の基礎となり成果となった、膨大な資料標本や研究機器類がある。その中には、文学研究科の考古学資料が約 20 万件あり、これらの資料はおよそ 90 年間以上にわたる調査と研究によって収集されてきたものである。

本講義では、これらの資料について解説し、これら資料に基づいて構築された学説の意義について紹介するとともに、その研究史的意義と今日的な意義について検討する。本年度は、東北大学において進められてきた弥生時代および古墳時代研究の特質について検討する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 東北大学が収蔵する考古学資料について理解する。
- (2) 東北大学の考古学資料の学術的意義を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 講義の概要と進め方の説明および導入
2. 東北大学での考古学研究の歴史
3. 東北大学収蔵の考古学資料の概要 (1)
4. 東北大学収蔵の考古学資料の概要 (2)
5. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (1)
6. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (2)
7. 東北大学における弥生文化研究 (1)
8. 東北大学における弥生文化研究 (2)
9. 東北大学における弥生文化研究 (3)
10. 東北大学における弥生文化研究 (4)
11. 東北大学における古墳文化研究 (1)
12. 東北大学における古墳文化研究 (2)
13. 東北大学における古墳文化研究 (3)
14. 東北大学における古墳文化研究 (4)
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート (60%)・出席 (40%)

7. 教科書および参考書：

教室にて資料を配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

9. その他：